

◆選択する活動を通して自分の思いを伝えよう

1 対象児童生徒（対象学級）の実態

肢体不自由、知的障害 日常生活や学習場面において、自分の考えや思いを、カードを選択すること、問いかけに答えること（肯定一口を動かす、否定一口を動かさないこと）で伝えることができる。

2 指導目標

- ・ 選択する活動を通して自分の考えや思いを伝えることができる。
- ・ 自分から発信するコミュニケーション手段を獲得することができる。

3 取組の中心となる教科・領域等

日常生活の指導、自立活動、特別活動

4 使用したアプリ、周辺機器

VOCA アプリ、各種スイッチ

5 指導の経過及び児童生徒の変容

タブレット型端末を使用する前に取り組んだ内容

絵や写真カード（2～6枚）から、順に赤枠で示される物を捉え、自分の考えや思いとマッチする時に返事（口を動かして）をして伝える。（図1）

日常生活、学習場面で取り組んでいった。

はじめは、言葉を重ねて順に聞いていった。徐々に言葉を減らし、赤枠での提示のみで示し、提示時間を一定にしていった。（8秒→5秒へ）



変容— 赤枠での提示で返事をするのがスムーズになってきた。

（図1）

タブレット型端末に移行

日常生活の活動内容を、2コマから4コマの組み合わせで、活動内容をアプリに設定する。選択の枠が自動で順に動いていくように設定する。

朝の活動や活動の切り替えの時に、本児が選択する場面を随時設定していった。（図2）

提示時間7秒



（図2）

日常生活の活動内容（健康、天気、遊び等）、学習、思い、感想（「たのしかった」「うれしかった」「こまった」）等の内容について4コマから9コマの組み合わせで設定する。（図3）



「元気ではない理由」「どこがいたい?」「今日の天気は?」「何して遊ぶ?」等（図3）

ファイバースイッチ使用

ファイバースイッチは、口の動き（舌先の動き）でスイッチが入るが、頭の動きや顔の動きでスイッチ設定位置が動くことや舌の小さな動きでは、スイッチが入らないこともあり、スイッチの設定の仕方に課題が残った。

変容—はじめは、ピンク枠移動の間の感覚がつかめず、移動する直前や移動してすぐに返事をする事が多く、どちらなのか捉えにくいことが多かったが、ピンク枠の移動のタイミングがつかめ、選択が確実にできるようになってきた。タブレット型端末での選択が身についてきた。

活動内容だけではなく、自分の健康に関する事、自分の思い、感想等選択肢の内容の範囲を広げて

いくことができた。選択肢の数も増え、待ちきれず前半で口を動かしてしまったり、動かすタイミングが合わずに繰り返したりすることも多かったが、次第に自分の伝えたいコマにタイミングよく選択することが多くなってきた。

6 指導のポイント（変容の要因、効果的な支援方法等）

日常生活の中で活用をすることにより、タブレット型端末での選択がスムーズになってきた。

さらに多くの選択肢の中から、自分の必要な内容を選んで、自分から必要な時に伝えていける力を今後身につけていきたい。それに伴い、選んだ時に音声で周囲に知らせることができるアプリや本児の口の動きに的確に対応できるスイッチ等を見つけ、常時継続して使用していくことでスイッチ操作に慣れ、自分の考えや思いを自発的に伝えていけるようにしていきたい。